

「顎変形症について」

旭川赤十字病院 歯科口腔外科副部長 嶋津 真史

顎変形症（がくへんけいしょう）とは、上あごや下あごあるいはその両方の大きさや形、位置などの異常によって、顔面の変形と組み合わせの異常を起している状態を言います。症状は千差万別ですが、顔の変形の程度、かみ合わせの異常の程度から、口腔領域の機能に大きな問題があると判断された場合に外科手術

によってあごの骨の位置関係の改善を行います。

顎変形症と診断された場合、手術前に歯の矯正（術前矯正治療）も必然的に行うこととなります。これは、術前矯正治療によって執刀の際に骨を移動する分量を正確にするのと、手術後に速やかに口腔領域の機能を正常にするために必要となります。この術前矯正治療には通常1～2年の期間がかかります。

女性で16歳、男性で18歳以上の時期に行なうとされています。

入院期間は2週間程度で、どの方法も基本的には口の中から行うため顔の表面に目立つような傷が残ることはありません。

ただ、あごの骨の中には太い血管や神経が通っていますから合併症を生じる危険性が無いとは言えません。大量出血、術後感染、手術後の知覚異常、気道閉塞などがありますが、その比率はけっして高率ではありません。

手術後にはあごの周囲の筋肉、粘膜、皮膚の位置関係が変化しているため、新しいあごの位置関係の上で噛み合わせのバランスを調整する手術後の矯正治療（術後矯正）がおおよそ1年ほど必要になります。

顎変形症の治療は数年間という長期の治療期間が必要ですが、顎口腔機能診断適合医療機関で行われる矯正治療と口腔外科で行なわれる外科手術には共に健康保険が適用されます。

顎変形症の治療後には、その後の審美面の他に咀嚼、発音などの機能の面でも大きなメリットがあります。

手術前後の矯正治療は歯科矯正医、外科手術は口腔外科医、と異なった歯科医師が担当するため、顎変形症の矯正治療をはじめの際には、どこで手術をするのかを決めなくてはなりません。また、高度なレベルの治療のため、大学病院や顎口腔機能診断適合医療機関の矯正専門医に診てもらったことが望ましく、長期間の通院治療が必要なため、主治医を慎重に決める必要があります。



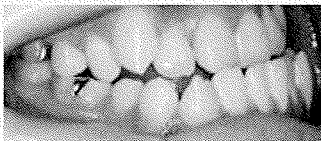
～お口爽やかですか～

手術は術前矯正終了後に行なわれ、あごの骨を切り、短縮、延長、回転などを行なって上下のあごの位置関係を正常にします。原則、手術は顎骨の成長が終わる

後に行なわれます。



治療前



治療後

